

麗和 サッカークラブニュース

VOL.10

平成17年6月30日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 星野隆之

総会報告

平成17年5月29日(日)、13:00から、麗和会館において平成17年度の定例総会が開催され、以下の議案が協議され承認されました。(資料は別途掲載)

平成16年度事業報告・決算報告、平成17年度事業計画・予算案
役員改選、その他

役員改選の結果、高14回卒の星野隆之氏が新会長に就任しました。前会長、菊池紀夫(高11回卒)様お疲れ様でした。

会長就任にあたって

星野隆之

私ごときが「栄光の時代」の諸先輩を差し置いて、伝統ある浦高サッカー部OB会の会長であって良いのか…と、自問しながらこの職をお引き受けしました。

平成4年に発行された部史「麗和」を読み返しました。遠く大正時代に蹴球部の文字が浦中麗和会会計報告に見られること。野球部がグラウンドを占領し、練習もままならなかったこと。大正12年に初の対外試合が行われ、初めてユニフォームができたこと。等から始まり、昭和25年第4回国民体育大会での初の全国大会優勝を飾ったこと。昭和26年度には三冠王獲得、加えて52連勝(次年度69連勝まで)の偉業を達成したこと。そして日本代表選手、日本ユース代表選手、国際審判員、日本人第1号FIFA公認コーチ、を輩出していること、感慨を持ちながら一気に読みました。そして、現在、埼玉県サッカー協会の中枢には我が浦高サッカー部で活躍した方々が多数携わっておられます。日本サッカーの歴史の中で、浦中・浦高サッカー部が果たしてきた役割(単に優勝の回数だけでなく)は誇りを持って語り継がなければならないと思います。そして我々後輩は誇りを持つとともに、我々には「浦高サッカー部に居る・居た」という責任があるのでは、と強く感じます。

だいぶ力んでしまいました。さてOB会の役割として

- 1 浦高サッカー部の発展に寄与すること
- 2 会員相互の親睦を図ること

の2つが有ります。

1 については先ず、金銭的な援助が必要と思われれます。現在、サッカー部は100名を越える部員がおります。入部した生徒のほとんどは、レギュラーで有る無しに関わらず、最後の大会まで頑張り続けます。当然レベルにはかなりの差があります。「ガンガン走らせて辞めさせちゃえ！」という声も無きにも非ずですが、サッカーが大好きな生徒たちにきちんとした「サッカー」を教えていくことは、日本のサッカーを発展させていくためには大切なことであると思います。各界のリーダーを育てなければならない浦高だからその責任とでもいえましようか。コーチ、審判員、スポーツドクター、トレーナー、メディア、協会役員、サッカークラブの経営、もっと大上段に振りかぶれば「スポーツ文化として日本に定着させるための力」になってもらいたいと思っています。そんなわけで、毎日の練習は2部制で行われています。夏合宿も2回に分けて行わざるを得ません。U16(1年生)の大会は3年目を迎えました。来年からU17(2年生)大会も入ってきます。もう1人2人の指導者ではとても面倒が見切れないのが現状です。今、大学生(もちろん浦高サッカー部卒)に来てもらっていいいますが、バイトもせずに後輩の指導をしている彼らに報酬を出すべきでしょう。

2 については、「栄光の時代」「全国大会出場常連の年代」「その他?の年代」「トップチームにいた者といない者」ではだいぶサッカー部に対する意識(思い入れ)の違いを感じます。残念ながら結果のでなかった年代の者は少しばかり「引け目」を感じているのも事実です。(私もその一人)しかし、それぞれが楽しかった、苦しかった、悔しかったこの浦高のグラウンドに集まるうではありませんか!「威張らず!卑下せず!出しゃばらず!」幸いなことに最近若いOBがグラウンドに顔を出してくれるようになりました。前述の「麗和」の各年代のグラビヤには熱心な指導者(先生)と先輩たち、そして研究熱心な部員の話が数多く残っています。そしてその代は少なからず結果を残しています。OBの力は馬鹿にはできません。「威張らず!卑下せず!出しゃばらず!」グラウンドに顔を出して下さい。出せない人はせめて「会費」を納入して下さい!「お金」も大いなる「力」です。

思いつくまま色々書いてしまいました。「OB会の発展は先ず人が集まること」そしてそれは必ずや「浦高サッカー部の発展」につながると信じます。至らない私ですがどうぞよろしく願い申し上げます。

新年度を迎えて

監督 松村 道彦(高27回)

浦高サッカー部の監督に就任して2年目を迎えました。昨年は着任早々の浦和カップ、2週間後の関東大会県予選、1年生のU-16県リーグ、高校総体県予選と息つく暇もないような日程の中で1学期が終了しました。その間、3年生には指導者が変わったことによる混乱や、戸惑いも少なからずあったとは思いますがよく頑張ってくれました。私と部員たち(特に2・3年生)の間で星野先生をはじめ、中澤、堀コーチたちがうまくコミュニケーションをとってくれたおかげでその戸惑いも最小限に食い止められたのではないかと感じています。また、定時制の関根先生(高23回)には1年生の指導、GK指導でたいへんお世話になりました。

平成17年度スタートの浦和カップは6試合で2勝4敗でしたが、少しずつですがサッカーの質がよくなってきています。試合をご覧になったOBの方たちには、結果の伴わない試合に「何を言っている」とおしかりを受けそうですが、日々のトレーニングの積み重ねが、少しずつ少しずつですが実になりつつあります。

この春、新入部員27名を迎え、2年43名、3年32名、合計102名という大所帯で活動を始めました。また、新たな顧問として川口青陵高より石井隆先生を迎え、1年生のU-16リーグの監督としてさい配をふるっていただいています。心強い限りです。5月の高校総体県予選では昨年と同様飯能南高と対戦。今回は2-0で雪辱を果たしました。翌日の春日部共栄高戦は連戦の疲労が出て0-1で敗れました。課題が浮き彫りになった試合でした。現在は8月26日・28日に行われる選手権一次予選に向けて準備をしております。昨年1年間で私自身が感じた浦高サッカーの課題のひとつ、メンタル面の充実をメインテーマにより質の高いサッカーを目指し指導して行きたいと思います。今年度もOB会の皆様のご指導とご援助よろしくお願いたします。

今年度の人事異動で、川口青陵高校から、石井 隆先生をサッカー部の顧問としてお迎えしました。専門教科は数学です。

着任にあたり

顧問 石井 隆

OBの皆さん始めまして。今年4月に転勤してまいりました。サッカー部の顧問は17年目になり、その間に審判3級の資格もいただきました。浦和高校サッカー部は、県内の公式戦、練習試合などで何度も拝見しており、今年から、そのお手伝いが出来ることになり、大変喜んでおります。委員長としても多忙な松村先生のお手伝いが少しでも出来ればと、努力していくつもりですので、よろしくお願いたします。

100名を超える部員を抱え、主将の統率力にかかる期待は大きくなります。

選手権予選にむけて

平成17年度 主将3年 田中 洋平

昨年は荻野先生の転勤、星野先生の退職、そして松村先生が新監督となり、慌ただしくスタートしましたが、あっという間に1年以上が過ぎ去りました。私たちの代は、先輩が夏休みに伊奈学園に惜敗してしまったため例年より早く九月から始動し始めもう少しで一年が経過します。先輩たちがいる間は、私たちは先輩たちに頼りきりで、いざ自分達を中心となる時が来ても自覚が感じられない、活気がないそんな状態が続きました。練習試合をやってもチーム全体が悪い雰囲気に流れてしまうこともありました。この流れを早く良い方向へと持っていけなかったのは私の力不足だと感じています。そしてこのチーム状況を露呈してしまったのが、新人戦、インターハイ予選の2つの大会でした。新人戦では大宮東高に1:1の延長戦で4失点、続く県大会代表決定戦では埼玉栄高に絶対勝つという強い意志が感じられず4失点もしてしまいました。インターハイ予選では飯能南高に2対0で快勝しましたが、翌日の春日部共栄戦では前日の良い流れを持続できずに敗退しました。いずれの試合も決して勝てない相手ではありませんでした。

自分達の弱さが浮き彫りになったこの大会を機に、部員全員が浦高サッカー部としてのふがいなさを恥じ、意識が変化したのは明らかでした。決定力不足、1対1で負けないという課題を一人一人が意識を高く持ち練習するようになりました。例年のチームと比べ私たちのチームは技術、体力、精神力、どれをとっても見劣りするのは事実です。しかしその差を埋めるべく、現在目前に迫った最後の大会、選手権予選に向けて必死に練習に取り組んでいます。着実にステップアップし、最低限芝のピッチが踏めるようそして更に上を目指しOBの方々の期待に応えられるよう、部員全員で力を合わせて頑張りますので応援よろしくお願いたします。